

ROTARY INTERNATIONAL GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 360

SHUHEI Y. MORITA

SHIKISHIMA BAKING CO., LTD.
NAGAHEI-CHO, HIGASHI-KU, NAGOYA, JAPAN



EXTRA 20 MARCH 1958

号 外

3月20日 1958

第360区ロータリークラブ

会長並に幹事殿

国際ロータリー第360区ガバナー

盛 田 秀 平

○ ガバナー及ガバナーノミニー打合 会議議事概要

ガバナー及ガバナーノミニー打合会議は去る3月1日正午より東京都丸ノ内の常盤家に於て開かれ次の様な問題を討議致しましたので御参考迄にお知らせ致します。特にロータリー規定審議会提出の制定案及決議案に就いては皆様の御手許にある資料を御参照御精読下さるよう御願ひ致します。

議題1. 地区分割の問題

小林理事よりR.I.本部の此問題に関する最近の取上げ方に関し次の如く説明があった。

一言にして云えば此問題の実現は難しくなった。現在の地区数は249であるが今年七月より更に9の地区(オランダ、フランス、ブラジル、米国内に)の増加が予想されている。之に関しR.I.の財務委員会より理事会に対しR.I.費用の増大を防止する為に地区を余り増加する事は好ましくない旨の提言もあった。前述の増地区の中、

オランダ、ブラジル等は其成立に強い反対がある。(地区の増加はガバナーの増加を意味し、従ってR.I.の財政上最も大きな支出を占めるものはガバナーの費用であるので、これがR.I.経費の増大の因をなす)。

大体一地区のクラブ数が30以下では到底実現の望みがなく Redistrict の場合残る地区も、増える地区も少くも40位のクラブ数が必要にならない。此意味に於て北海道地区だけの Redistrict は困難である。印度の地区の如きは相当の広範囲にわたる所もあり又東南アジアには国を別にする地区もある位であるから単にガバナーの公式訪問の旅行距離が遠いだけでは地区増加の強い根拠とはならない。

よって、地区分割の場合の一地区の経済単位としてはクラブ数40、会員数1200乃至1500名がなければ本部の承認を期待出来ない。1000名では先づ見込薄である。然し乍らガバナーの過重の負担を軽減する上より、R.

I.本部は District Administration に就て、Past District Governors の活用を提唱している。即ち Rotary の Resource の活用である。又 District Advisory Committee の設置も此問題の解決に有効の措置であろうと云っている。

District Assembly や Conference にはガバナーは如何しても出席しなくてはならないが、Intercity Forum や Charter Night 等は必ずしも現ガバナーの出席を必要とせず Past Governor に委嘱して差支えない。

ガバナーに対する費用の割当は毎年 2 月 28 日のクラブ数に 40 米弗をかけた額であるから夫れ以後に設立されたクラブに対しては別途割当を請求することが出来る事になっている(増加クラブ数に 40 弗をかけた額となる)。

尙列席のガバナーより最近、Intercity General Forum (之が盛んに行われているのは米国と日本だけ) One day Institute, District Assembly, District Conference と余りに同じ題目の下に催される会議が多すぎる。One day Institute の如き廃止しては如何かとの意見の開陳もあつたが小林理事は之に対し、

『本部 Program Planning Committee は One Day Institute をやめるとか一年置にやるとか云う意見には賛成していないので、District Conference の前日懇談会等の機会を利用してやつた方がいい』旨の発言をした。

尙 Redistrict の本部に対する提案は 5 人の Governor Nominee が今年 Lake Placid に行く時此 Group の力によつて強く提案がなされる必要を小林理事は附言した。

小林理事退出後、各ガバナー及ノミニーの意見として本年度の分割方針としては東の方は分割直後であるから西の 365 及 370 区を更に 3 分割する案の実現を小林理事を中心として Lake Placid で先行する事とし之と併せて 350、355 及 360 地区再分割も将来

の爲め参考案として R. I. 地区分割委員会に提出する事を申合せた。(現在クラブ数 365 区 62、370 区 50、計 112、会員数約 4,400 名)

西日本 Redistrict の参考案として

九州地区(山口県を含めるか如何かの問題あり)

近畿四国地区

山陽山陰地区

3 分割案が直木 365 区ガバナーより提示された。

議題 2. ロータリー財団、地区資金委員の選任

両委員会の委員は現在各 3 名宛となつてゐるが、其内各 1 名は本年任期が満了するので、本年 4 月に開催される各地区協議会に於て、之に代る補充各 1 名を選任の上発表する事とした。

尙小林理事より、ロータリー奨学生は各地区より 1 年おきに出す事になつてゐるが、之は Taylor 会長時代の言質もある事故毎年各区より出す様 R. I. 理事会に於ても研究中である旨発言があつた。

又地区資金の拠出額は今年も昨年同様会員 1 名に付年額 600 円(年 2 回払)とする事に決定した。

議題 3. 雑誌、文献委員会の改組

現在、日本に於ては各地区より文献委員 1 名、雑誌委員 2 名が指名され之によつて夫々の委員会が構成されているが、此内文献委員会は本部も公認してなく、宮脇前ガバナーが本部の委嘱を受けて R. I. の公けの文献の邦訳

Manual, Constitutions and By-Laws,

(Mr. President, Timely Tips Clipping, Program Idea 等)をしているのが実情で、文献委員会としての機能は殆んど皆無である。然しさればとて、ロータリーの解説書の如きは未だ文献委員会の仕事として残る余地はあるが、ロータリー邦訳文献は現在に於ては、ロータリーの友で配布の仕事も引受けている事実もあり、ロータリーの友編集審議会員(雑誌委員と称

す)も各地区より現在の儘二名として据置く時は将来地区増加の場合等を考えると委員が多くなりすぎる嫌いがあるのと雑誌委員の仕事も逐次専門化して来たので両委員会を廃止して次の如く一体化する事を決定した。

ロータリー刊行物審議会の設置
構成 議長、副議長、専門委員(3名)、各地区委員(各1名)

議長は各地区ガバナーがR.I.文献邦訳責任者(Authorized Translator)宮脇パストガバナーに委嘱する形式をとり副議長及3名の専門委員は同氏推薦の事として各地区委員は夫々今春の地区協議会に於てガバナーより委嘱発表する。

尙副議長以下各委員の任期は1年とし再任をさまたげないものとする。

本審議会には別に顧問をおき直前ガバナーが自動的に之に当る。

議題4. 規定審議会に関する件

宮脇氏司会の下に1958—59年規定審議会提出の制定案及決議案に対する態度を逐条審議の後次の如く決定した。

1. 定款及細則に関する件
58—1 賛成
2. 地区協議会に関する件
58—2 不賛成、58—5 賛成、58—38 不賛成
3. 国際ロータリー会長指名に関する件
58—3 代議員に賛否一任(以下一任と云う) 58—16一任、58—17一任、58—18一任、58—26一任、58—30一任、58—34一任
4. クラブ会員資格と会員住所に関する件
58—4 不賛成、58—10 不賛成、58—39 不賛成
5. 偶数年次国際大会に受理された決議案の件
58—6 賛成
6. 規定審議会出席及地区代表者選出に関する件
58—7 賛成、58—11一任、58—12一任、

58—19 賛成、58—27一任、58—33一任

7. 地区ガバナーに関する件
58—8 不賛成、58—23 賛成、58—24 賛成
8. 地区境界変更に関する件
58—9 不賛成
9. R.I.理事の定員に関する件
58—13一任、58—14一任、58—15 不賛成
58—28 不賛成、註: 58—13及58—14は撤回の予定なる旨小林理事より発言があつた。
10. 特定委員に関する件
58—20 賛成
11. クラブ会員に関する件
58—21 賛成、58—29一任、58—31一任、
58—36 不賛成、58—37一任
12. 出席に関する件
58—22 賛成、58—35 不賛成、58—43 賛成
58—44 不賛成、58—45 不賛成、58—46一任、58—47一任
13. ロータリー綱領に関する件
58—25一任、58—32一任
14. 地区諮問委員会に関する件
58—40一任(不賛成に近い)
15. 奨学生に関する件
58—41 不賛成
16. 職業分類に関する件
58—42一任
17. 特別委員に関する件
58—48一任

議題5. 今年地区大会の打合事項

登録費 地区内3,000円、地区外3,500円
日取及場所

	前日懇談会	第1日	第2日
350区 (小樽)	8月17日	8月18日	8月19日
355区 (前橋)	10月26日	10月27日	10月28日
360区 (岐阜)	10月3日	10月4日	10月5日
365区 (和歌山)	10月18日	10月19日	10月20日
370区 (岡山)	10月12日	10月13日	10月14日

議題6. 1961年世界大会に関する報告 小林
R. I. 理事

過去2回世界大会引受に失敗したLondonは今年もホテル側の引受保証を得るに至らず流産に終り、次の候補地として東京とサンパウロが表面に浮び出たが結局東京案に落ち着いた。

之はGeorge Means氏の詳細な報告に負うところ尠くない。

乍然、東京側に於るホテルの保証、多数参加者のTransportationの問題等がなお残されているが幸い、航空関係(一週間に約5,000人の輸送)船会社関係(プレジデント及マトソンライン両社)に於ては引受可能の見通しがついたので、あとは東京の受入体制のみとなり、目下ホテル業者側と交渉中である。大会は5月28日から6月2日迄で会場として、東京都体育館(代々木)早稲田体育館、月島のInternational Trade Center(来年完成予定)が候補地となつている。

問題となるのは大会の友愛会館であるが東京会館が不適当なので日比谷公園の中に仮小屋を建てる予定、余興としては日本独得のもので第一流のものを出す事にしたい。

大会経費は本部大会経費の他ホストクラブたる東京R. C.の負担も相当なものになると思うので日本のクラブの協力が強く要望される、政府の援助も又必要であろう。

大会使用語は英語及日本語となるべくマイクローエーブのイヤホーンの使用不可能の時は邦訳印刷物を配布する事となつている。

参加人員は約1万人此内海外からのロータリアンは米国が最も大きな割合を占めるであろう事は間違なく其数約4,000人と予測している。

大会前後の日本観光は20組位に分けて日本交通公社の斡旋によつて行われる。

今迄の記録で、ロータリー大会の其国に落した金額はルサーンがレコードで約300万弗と謂われ、紐育が之れに次いで280万

弗となつている。東京大会では恐らく約10億円の外貨が日本に落されるものと期待される。